

# Aさんの事例

事例提供者: 基幹相談支援センター

## 1. 事例提供者との関わりのきっかけ

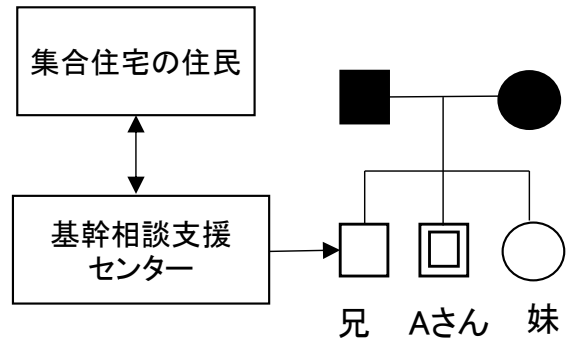
集合住宅の住民から、同じ集合住宅に入居している50代の3人兄弟の世帯について相談があった。

相談内容は、「Aさんがゴミ捨て場のごみを漁り、食べられそうなものを探している。何か支援できることはないか？」とのこと。

情報収集していくと、ひきこもりに近い状態だが、福祉サービスにはつながっていないことが分かった。

訪問し、兄に会えたが、「困っていることはない」とのことだった。

## 2. エコマップ(取組以前)



## 3. 取組内容

### 見守り

- ・3人兄弟が入居しているのは、シルバーハウジングの指定がされた住宅ではないが、シルバーハウジングの生活援助員が、朝ごみ出しをしているか等、この3人世帯の様子を気にかけてくれている。

シルバーハウジング・生活援助員とは：

シルバーハウジングは、住宅の一部がバリアフリー化されている等、高齢者等の生活に配慮されており、生活援助員による見守りや生活相談等を受けられる。また、事務所には、生活援助員が常駐している。

### 寄付

- ・地域住民から話を伺う中で、集合住宅の複数の住民から「良かったら使ってください」と服や布団などの寄付があった。

### 継続的な訪問

- ・定期的にAさん宅を訪問し、関係性の構築を図っている。
- ・Aさん宅への訪問の際に、地域住民ともコミュニケーションをとるようにしている。Aさんの世帯のように継続した伴走支援をするにあたって、協力的な地域住民の存在は大変心強い。